

近代英語協会ニュースレター

2022年(令和4年)12月23日

近代英語協会事務局分室

〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12

愛知学院大学文学部前田研究室内

協会ホームページ <http://www.modernenglish.jp/index.html>

電話: 0561-73-1111(内線 3264)

年会費振替口座 00810-9-5821

1 第39回大会(ZOOM大会)の報告

第39回大会は、去る8月20日(土)に開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大がいつにも収まらない状況の中、今年度も昨年度に引き続きZOOMを用いたオンラインでの開催とさせていただきます。大会では、まず中村不二夫会長より開催のご挨拶を頂き、続いて塚本聡先生を中心に行われたシンポジウム、および6件の研究発表が行われました。そして、講演として、千葉大学名誉教授・小倉美知子先生による「Ah, you are a travelling scholar!—Verbs of Motion in Medieval English」と題する大変興味深いご講演をいただきました。シンポジウム・研究発表・講演は知的刺激に満ちたものが多く、質疑応答でも活発な議論の花が咲き、盛会のうちに終了しました。参加者の皆様のご協力のおかげで、今年も大きな支障なく大会を終えることができました。この場をお借りして事務局一同厚くお礼申し上げます。

今回の大会の参加者数は60名でした。ZOOMに不慣れな方もおられる中、数多くの皆様にご参加いただき、厚く御礼申し上げます。なお、年度別参加者数は次の通りです。

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
大会	79	84	83	92	84	85	94	94	—	80	60
懇親会	40	39	40	48	42	44	50	50	—	—	—

次回大会もぜひふるってご参加ください。

2 第40回大会について

第39回大会の総会でもご報告いたしました。第40回大会は2023年6月24日(土)、対面式により国立大学法人名古屋工業大学(名古屋市昭和区)で開催する予定です。ただし新型コロナ蔓延状況下では、他大学あるいは2023年8月19日(土)にZOOMで開催する可能性も視野に入れております。年度末の理事会で開催方式を最終決定し、文書にてご案内いたします。協会HPもぜひ定期的にご覧下さい。シンポジウムについては、縄田裕幸先生(島根大学)、保坂道雄先生(日本大学)、長野明子先生(静岡県立大学)により「英語史の事実から言語理論を検証する—通時的に妥当な理論の構築を目指して—」(予定)というタイトルで行われます。一方、特別講演は、「G. Chaucerが近・現代英語に遺したもの—言葉の表現性の探究とその芸術的可能性—」(仮)という題目の下、Chaucer研究で名高い広島大学名誉教授中尾佳行先生にご発表いただきます。皆様もご存じのとおり、先生は当協会の要職を歴任され、また、大会に精勤されて発表者に厳しくも温かいコメントと質問を差し伸べてこられました。正式な講演題目と要旨は大会資料でお知らせいたしますが、専門の異なる会員の皆様にも満足いただけるよう、Chaucerが英語の表現可能性をどのように広げ、近・現代英語の発達(拡張)にどのように貢献したかについて、音、語、統語、語りのテキスト構造等、多岐に渡って講じられる予定です。

個人研究発表の締め切りは2023年1月31日(月)です。発表をご希望の方は、(a)発表題目と400字程度の要旨、(b)氏名・所属・職位・略歴・連絡先(住所、電話番号、Eメールアドレス)・大会発表助成金希望の有無(※参照)を別文書として作成し、下記の(ア)、(イ)いずれかの方法でご応募ください。様式は、協会ホームページにあります。なお、本協会の趣旨により、発表内容は近代英語の研究、あるいは近代英語を含む英語の歴史的研究に資するものとしてください。

(ア) E メール添付による応募

- ・ (a) 特殊文字を使用される場合は MSWord 文書、及びその PDF ファイルを添付
- ・ (b) 特殊文字を使用されない場合は MSWord 文書のみを添付

宛先 m-maeda@dpc.agu.ac.jp

(イ) 郵送による応募

- ・ (ア) の (a) または (b) のいずれかを記憶した CD-R
- ・ 打ち出し原稿

宛先 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12

愛知学院大学文学部 前田 満

※ 大会発表助成金制度について

本協会では、大会参加への費用を軽減し、若手研究者を中心に大会発表を奨励するため、大会発表助成金制度を設けております。助成対象者は、発表を行う大学院生・常勤職のない会員（発表を行う年の4月1日時点で37歳以下または修士号取得後10年以内で、所属機関等より大会会場への交通費の補助を受けていない者）といたします。また、助成金額は、自宅から大会会場までの国内交通費（往復）とし、交通費の計算は協会事務局が行います。なお、申請方法は、大会発表の受理後に、申込用紙（発表応募時に希望を明記）に詳細を記入し、事務局に提出頂きます。多くの発表の応募をお待ちしております。

3 『近代英語研究』 第38号の発行について

第38号は予定どおり刊行され、7月末に本年度の大会資料とともに会員全員に郵送させていただきました。会員の皆様の中で、万が一お受取になってない方がいらっしゃいましたら、お手数ではございますが、事務局長（前田）までメール（m-maeda@dpc.agu.ac.jp）にてお知らせください。改めて送付させていただきます。

4 近代英語協会最優秀新人賞ならびに優秀学術奨励賞の選考結果について

本年度は、編集委員会による厳正なる審議の結果、下記のとおり1名の優秀学術奨励賞受賞者が決定いたしました。次年度も皆様のご応募をお待ちいたしております。

賞の名称：優秀学術奨励賞

受賞者氏名：村岡宗一郎

受賞対象論文名：A Diachronic Study on Aspectual Properties of Non-finite Verbs in the Complement of Perception Verbs

受賞理由

本論文は知覚動詞補文で観察される原形不定詞と現在分詞のアスペクト特性の違いが英語史のどの段階で確立したかをコーパス調査に基づいて実証的かつ理論的に考察したものである。

実証面に関しては、先行研究では両者の機能が分化したのは近代英語期以降とされてきたが、実際には初期近代英語では依然として原形不定詞と現在分詞が区別なく使われており、両者の機能の分化が初期近代英語以降に始まったことが、説得力をもって主張されている。しかし、この主張は、先行研究での見解を精査し、分化の時期をより特定したという観点から見ると、独創性にやや欠けるとも思われる。

理論的な観点では、知覚動詞補部における非定形動詞のアスペクト特性が現在分詞の文法化により確立したと主張しているが、この主張の妥当性は定形節での進行相の発達とも比較するなどして、さらに検討する必要があると思われる。

このように実証面でも理論的分析にもやや物足りなさを感じるものの、当該現象に関する先行研究の網羅的な調査とコーパス資料の綿密な検討によって従来の学説に一石を投じた貢献は大きい。したがって、本論文は「優秀学術奨励賞」に相応しいと判断する。

— 『近代英語研究』 編集委員会

5 『近代英語研究』掲載論考の転載（および刊行）許可申請手順について

『近代英語研究』に掲載済みの全ての論考の著作権につきましては本協会に属することをご理解いただきたいと存じますが、掲載済み論考を著者の方がご自身の学位論文へ転載を希望される場合、および、その論考が転載された学位論文の刊行を希望される場合もあるかと存じます。そのような場合につきましては、編集幹事宛に所定の許可願をご提出いただくことで、協会から許可書を発行させていただきます。ご希望の方には申請書をお送りいたしますので、編集幹事（鈴木・船田）まで E メールにてご連絡をお願いいたします。

6 『近代英語研究』掲載論考の、研究機関（大学等）リポジトリへの登録について

上記の通り、『近代英語研究』に掲載済みの全ての論考の著作権につきましては、本協会に属することをご理解いただきたく存じますが、掲載済み論考を著者の方が研究機関（大学等）リポジトリへの登録を希望される場合もあるかと思えます。その場合につきましては、協会誌の発行の1年後から登録を可能とすることになりましたので、登録する前に編集幹事（鈴木・船田）まで、ご相談のご連絡をお願いいたします。

7 『近代英語研究』電子アーカイブ化

J-STAGE（独立行政法人科学技術振興機構）に、『近代英語研究』が電子アーカイブ化されております。パソコン等でサイトにアクセスすると、創刊号から第25号（2009年）までの論考を、現在ご参照いただけます。近代英語協会ホームページ<<http://www.modernenglish.jp/index.html>>左下の「協会出版物」からのリンクが便利です。なお、本年度中に26号（2010）から32号（2016）までの号をアップロードする予定です。いましばらくお待ちください。また、『近代英語研究』の冊子と同様に、すべての著作権は本協会に帰属することをご理解いただきたく存じます。

8 ホームページの図書紹介欄について

会員の皆様が出版された文献を本協会のホームページでご紹介いたします。自薦、他薦は問いません（他薦の場合は著者の了承を得てください）。紹介されたい著書（翻訳本も可）のタイトル、表紙の写真、および紹介文（800字程度まで）を添付し、IT管理者の柳朋宏先生まで電子メールでお送りください。なお、書籍の実物の事務局への送付はお控えください。

9 会費納入のお願い

本年度大会資料をお届けした本年7月下旬、会員お一人お一人に振込用紙を同封いたしました。どうか、納入漏れのないよう今年度中に請求額全額をお振り込みいただきますようお願い申し上げます。協会の円滑な運営のため、ご協力ください。なお、3年間未納の場合は、規定により退会となりますのでご注意ください。何かご不明な点がございましたら、事務局長（前田）まで、メール（m-maeda@dpc.agu.ac.jp）にてお尋ね下さい。

10 終身会員制度について

終身会員の申込資格は次の(1)、(2)のいずれかとなります。

- (1) 66歳以上、または当該年度中に66歳になる会員で、過去10年間会費を全納した会員
- (2) 顧問として承認された会員

申請の際には、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を払ってください。申請用紙、ならびに払込用紙は事務局長（前田）までメール（m-maeda@dpc.agu.ac.jp）にてご請求ください。申請された年度より年会費は不要となります。終身会員には大会の懇親会に無料で参加できる特典もあります。なお本年度の理事会決定により、理事の方は終身会員への申請ができませんのでご了承ください。

11 所属、および連絡先通知のお願い

所属、および連絡先（住所、Eメールアドレス等）に変更があった場合は、速やかに事務局長（前田）までメール（m-maeda@dpc.agu.ac.jp）にてお知らせください。学生会員の方が学生の身分を終えられたときも、会員種別が「学生会員」から「一般会員」へ変更となりますので、必ずメールにてお知らせください。 よろしくをお願いいたします。

12 出版事業について

昨年度の理事会において、今年度からこれまで刊行してきた協会誌『近代英語研究』に加えて、『近代英語協会研究叢書』と銘うって新たな出版業務を行っていくことが決定されました。それを受けて、今年度末には記念すべき『近代英語協会研究叢書』第1巻、*Linguistic and Stylistic Approaches to Speech, Thought and Writing in English: Diachronic and Synchronic* [MEA Studies in English Philology and Linguistics 1] が Peter Lang から出版される運びとなっております。この出版事業の目的は、協会内の研究を活性化し、とくに大学院生など若手研究者に執筆の機会を提供することを主な狙いとしております。また、今後は協会の出版活動を広く宣伝し、出版業務を新しい会員獲得のツールとしていきたいと思っております。さらに来年度の夏頃には、第1巻に続き、第2巻の原稿募集も行う予定です。現在のところ、『文法化と文法変化』といったテーマを念頭に準備を進めております。編者は保坂道雄先生(日本大学) および私(前田)の予定です。なお各巻にはそれぞれ具体的なテーマが設定される予定ですが、テーマに沿った論文とそれ以外のテーマ自由の論文からなる2部形式を考えており、投稿の際の論文のテーマは自由にお選びいただけます。この点、誤解のないようご注意ください。なお第2巻の詳細情報につきましては、来年度大会の総会およびニューズレター、協会 HP (<http://www.modernenglish.jp/>) にてご案内いたします。最後に、『近代英語協会叢書』への投稿は、当協会に所属する会員の特権です。当協会の会員で会費の滞納がなければ、原則どなたでも投稿できます。この件について何かご不明な点がございましたら、事務局長(前田)までメール(m-maeda@dpc.agu.ac.jp)にてお尋ね下さい。

13 事務局より

本年度の大会も残念ながらオンライン開催となりましたが、しだいに新型コロナウイルスの脅威が収まってきていることを肌で感じているこの頃です。まだ他学会の今年度の全国大会ではオンライン開催が主流でしたが、地方大会では対面開催もちらほら見受けられました。この状況からすると、来年は大会会場の名古屋工業大学で皆様にお会いする可能性も高くなってきたように感じます。会員の皆様とももうずいぶん長くお付き合いしてきたように感じますが、もうあと半年ほどで事務局長の任期も切れますので、せめて最後は対面で大会に臨みたいと強く願っています。また、今年は『近代英語協会研究叢書』第1巻の原稿募集が終わり、もっか今年度末の出版に向けて鋭意準備が進められているところです。編者の皆様、たいへんお疲れ様です。なお前項でご紹介いたしましたとおり、来年は『近代英語協会研究叢書』第2巻の募集も行う予定です。会員の皆様には会員の特権として自由に投稿していただけますし、また、研究テーマも自由に設定していただけます。事務局といたしましては、とくに大学院生の皆様をはじめ将来ある若手研究者の皆様の投稿を期待しております。最後に、毎回書いていることですが、来年こそ会場である名古屋工業大学で直接皆様にお会いすることを事務局一同心待ちにしております。

事務局長 前田 満

- 協会誌について
鈴木大介・船田佐央子(五十音順) (編集幹事共通: mode.assoc@gmail.com)
- ホームページについて(会員の出版された図書紹介もお寄せください)
柳朋宏(※ IT 管理者の連絡先は後日ホームページ上に掲載予定)
- その他全般について
前田満(m-maeda@dpc.agu.ac.jp)